

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年7月13日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0891900045		
法人名	有限会社 バディ		
事業所名	グループホーム けやき	ユニット名	
所在地	〒300-1216 茨城県牛久市神谷1-14-13		
自己評価作成日	平成21年12月30日	評価結果 市町村受理日	平成22年6月28日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成22年2月12日	評価確定日	平成22年6月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>家庭的な雰囲気の中、利用者個々を大切にその方の意向にあった生活ができる様支援致します。 スタッフが家族の一員として暖かく接しています。 ホームは住宅街の一角で家庭菜園に囲まれ、静かな環境にあります。 日常的に外に散歩にゆきます。 毎日スタッフが手作りの料理を作っています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>管理者は利用者本位のサービス提供を第一に考え、職員は利用者を昔の風習や生活の知恵などを教えてもらえる存在として敬意を払うとともに、一人ひとりの相談相手となって信頼関係を築いている。 管理者や職員は、利用者がそれまで過ごしてきた生活やつながりを大切にしてもらいたいと考え、家族等や友人の協力を得て利用者を支援している。 事業所は市街地の外れにあるため緑豊かな環境であり、日課となっている散歩を通して四季の移り変わりを肌で感じることができるとともに、テラスから流星群を見たり月見をするなど自然と触れ合うこともできる。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット会議の際、会議の席でスタッフ同士で再確認を行なっている。利用者それぞれの意思の尊重に心がけ、利用者主体の生活が営めるよう、制限をできるだけ少なくし、自立支援に向けたケアと地域交流の理念を念頭に仕事に従事するよう努めている。	理念は事業所開設時に地域密着型サービスの意義を踏まえ、全職員協議のうえ作成したものである。 理念を玄関や職員の目につきやすい場所に掲示するとともに、ユニット会議などで確認し合い、実践に向けた取り組みをしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今後、認知症の勉強会を地域の皆様と一緒に開催する予定になっている。利用者さんとの散歩の折なども、会話をしたりしてなじんでいたく様努めている。地域のボランティアの皆様の受け入れも行っている。	自治会へ加入し回覧板を回したり、大正琴やギターの演奏、歌、日本舞踊などのボランティアを受入れ、地域と日常的に交流している。 隣地が市民農園となっており、作業に訪れる地域の人々に、お茶のみを誘ったり収穫物をもらうなどの関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症を地域の皆様により正確に認識していただく様、包括に協力を得て勉強会を開催する予定である。行事の折には、地域の方を招き、利用者とは過ごしていただく予定である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、区長、行政、他事業所の方達とホーム関係者の活発なる意見交換ができ、今後の運営の課題として取り込むことができる。運営推進会議の内容はユニット会議にてスタッフに報告、サービス向上に努めている。	昨年12月に利用者の家族等や区長、近隣介護施設の施設長、提携医療機関の主任、事業所関係者で第1回目の運営推進会議を開催した。 会議では運営状況の説明や意見交換を行い、そこでの意見や助言を事業所の運営に役立てている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政とは密に連携を行い、情報交換に努めている。不明な点はその都度、連絡を行い指導して頂く。先日、牛久市の「介護の日」のイベントもあり、ブースを設け、参加している。毎月、市から相談員がみえ、利用者の意見、要望、相談などを聞いている。	市担当課を訪問したり電話で連絡や相談をしているほか、市主催のイベントに協力したり市職員の見学を受入れるなどで協力関係を築いている。 市と協力して地域の人々を招いて認知症についての勉強会を開催することが決定している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理念にもかかっているように、あらゆる制限をしないよう努めている。玄関は開けるとブザーがなるようにはなっている。	利用契約書に身体拘束をしない旨を明記し、マニュアルを作成している。 利用者の安全を考慮し玄関は施錠している。	玄関の施錠を含め身体拘束をしないケアについて研修や会議等で話し合う機会を設け、職員の意識の啓発に取り組むことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症への理解を深めながら、スタッフに虐待防止を徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などを行い学習し、必要な際は関係者等に相談する方針である。先日、研修もあり、その内容をスタッフに報告している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、十分に納得されるよう、時間をかけて説明を行い実施している。どのような小さい事でも不明点や相談などがあれば、丁寧に耳を傾けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方の訪問の折など、本人と家族を交えて話し合いを設けている。運営推進会議などで家族の方に意見を出していただき、外部者にも直接聞いていただく他、会議にも意見や要望を取り上げてゆくようにする。	管理者や職員は利用者から日常のふれ合いの中から、家族等からは面会の折に意見や要望を聴くように努めている。 管理者は毎月発行する広報誌で家族等に意見等の提供を呼びかけている。 月に1度市の介護相談員が来訪して利用者の話を聴き事業所に報告している。 玄関に意見箱を設置するとともに、苦情相談受付窓口を玄関に掲示している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議を持ち、運営に関してもその都度スタッフの方に説明をし、自由に意見を求めている。適切な考えであれば、取り上げている。	管理者は職員が意見や提案をざっくばらんに言える関係を築くとともに、出た意見等は全職員で話し合い運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフが仕事にやりがいを持てるよう、スキルアップのための研修や就業条件など考慮に入れている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	困難事例の利用者もおおり、話し合いをしながら、経験のあるスタッフの指導のもと、法人内で働きながら、トレーニングを行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人は今までの生活からサービスを開始にあたっては、環境の変化に対する不安や戸惑いを生じる事もあり、十分にお話を聞きし、少しでも不安を取り除き、信頼していただくよう努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族には、こちらのホームの過ごし方など説明すると同時に家族の要望、相談ごとに対応する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に本人と会い、状態を良く把握し、話し合いをする。本人や家族が今何を望んでいるか、他のサービスを含めて考えてゆく。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭の一員という考え方の基、協力して、生活を送ってゆく。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の一員という考え方から、家族といっしょに、本人が少しでも気持ち良く、目標に向かって生活できるよう支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会で訪問される方々との関係を大切にしている。	職員は利用者の親戚や友人との手紙や電話のやりとりを支援している。 職員が同行し空き家になっている利用者の自宅の様子を確認に行けるよう支援している。 家族等と協力して法事や墓参り、馴染みの店での買い物に出かけられるよう支援するとともに、利用者のそれまでの関係が継続できるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間にはいたりし、話しがうまくゆく様に支援する。レクレーションを一緒におこなったりする事で、共通の話題も生まれる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もその方との関係は続けてゆき、相談や支援を行なってゆく所存である。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	理念にもかかっているように、本人の意思に添った支援を行なっている。個々それぞれの思いを大切にしている。	職員は利用者の生活歴を把握したうえで、日常のふれ合いの中から一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。 輪投げやボーリング、トランプ、囲碁など利用者がやりたい時にやりたいことができるよう支援している。 職員は利用者の得意なことに目を向け、役割をもって過ごせるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントする上でも、十分に把握するよう努めている。ホームにおいても今までの生活が継続できるよう努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録をつける事で、ADL、排泄、入浴などの観察を行い、その方の現状を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	可能な限り、チームケアを行い、スタッフ、家族、医療関係者を交えてのケアプランの作成を心がける。、スタッフ同士の話し合いを行い、モニタリングをしながら、より良いケアプランを導き出してゆきたい所存である。	介護計画は利用者や家族等の希望を取り入れ作成するとともに3ヶ月から6ヶ月ごとに見直すほか、心身状態に変化が生じた場合はその都度見直し利用者や家族等の確認を得ている。 介護日誌を作成し介護支援経過を記録したうえで全職員で協議し、現状に即した介護計画を作成している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別の介護日誌を記録し、それについて、スタッフ同士の情報共有を行い、より良いケアに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物やイベント見学など、利用者の要望などあれば、行うようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアが当ホームにてクリスマスパーティを主催してくれ、色々と出し物を披露してくれた。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が毎月1回の定期往診を行なっている。また、利用者の健康相談や助言は必要に応じて対応してくれている。必要時は往診、外来受診を行っている。	1ヶ月に1回提携医の往診がある。眼科や歯科、泌尿器科などのかかりつけ医への受診は家族等の付き添いを原則としているが、要望があれば事業所で対応している。 受診前に家族等に電話をし受診の承諾を得たり、医師へ伝える事を確認しているほか、受診結果を家族等に報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>必要な情報を提供し、円滑に対応できるようにする。又医療機関の方もホームの方に、入院時の状態の情報等、早期退院にむけての指導等して頂くよう日頃より関係づくりを行なう。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>前回の運営推進会議でも取り上げられ、課題として取り組んでゆく所存である。</p>	<p>重度化した場合や終末期の方針について、契約時に利用者や家族等に説明しているが明文化するまでには至っていない。</p>	<p>重度化や終末期に向けた方針を再度協議し、関係者間で統一した見解をもったうえで共有することを期待する。</p> <p>決定した方針は明文化したうえで、利用者や家族等に説明することが望まれる。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>消防署による救急救命講習会をホームにて開催し全員受講している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の協力により防災訓練を行っている。</p>	<p>昨年11月に消防署指導のもと総合訓練を行ったが、記録作成や地域住民の協力を得るまでには至っていない。</p>	<p>避難訓練の実施記録を作成するとともに地域住民に参加を呼びかけ協力体制づくりに取り組むことを期待する。</p> <p>食糧や飲料水、毛布などを備蓄することを期待する。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重した、ことばかけ、対応を行っている。	個人ファイルは鍵のかかるロッカーに保管して情報の漏洩に留意している。 職員は利用者の携わってきた職業や性格、癖などを把握し、誇りを尊重して支援している。 トイレ誘導時には耳元で呼びかけたり、相談ごとは居室を利用するなど、利用者一人ひとりのプライバシーに配慮した支援をしている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフは利用者が、要望など話しやすくなるよう働きかけている。				
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースにあわせ、気持ちよく生活できるよう支援している。				
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望によって、洋服を選ぶなどその人のこだわりを大切にしている。				

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みなど日頃伺いながら、栄養バランスを考えて食事作りを行っている。配膳、下膳の手伝い、テーブル拭きなど手伝ってもらっている。行事の折々には、それに見合った料理を出すなどし、楽しみを持つようにしている。	利用者は職員とともに、配膳や下膳、テーブル拭きなどできる範囲で行っている。 ウッドデッキでの食事やお茶のみ、誕生会や家族等を招いての会食、中華レストランでの外食などで変化をつけ、食事を楽めるように支援している。 事業所の畑で収穫した食材を活用して調理することも、利用者の楽しみの一つになっている。 利用者と職員は同じテーブルを囲み和やかに会話をしながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分チェックを行っている。個々の食事量をその方にあわせ、出している。水分は脱水にならないよう注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本的に毎食後行なっている。忘れがちな人には声かけを行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを記録し、誘導など行なっている。オムツの方でも尿意、便意のある方はなるべくトイレにての排泄ができるよう支援している。	職員は利用者一人ひとりの生活リズムや排泄のパターンを把握し声をかけ排泄の自立に向けた支援をしているため、日中は利用者全員がトイレで排泄をしている。 夜間は利用者のコールに応じて付き添い、排泄の自立を支援している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を取り、身体を動かす事で便秘を少なくするようにしている。食事内容の工夫も心がけている。医師による薬の投与もおこなっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に曜日を決めて入っているが、本人の希望があれば入浴は随時可能である。	入浴は基本的に3人ずつ週2回と決まっているが、利用者の希望にそっていつでも入浴できる体制となっている。 柚子や菖蒲、入浴剤などを利用したり、眠れない利用者に足浴を施すなど、入浴を楽しめるよう支援している。 入浴を拒む利用者には強要せず、タイミングを見計らって再度声をかけたり、家族等の協力を得るなど工夫をして入浴できるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意思にまかせている。自由に部屋でくつろいだりされ、眠る時間も個々自由である。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ある程度は理解されている。服薬に関してはダブルチェックでを行い、新しい薬が出た時は症状の変化等に関して、特に気をつけて状態観察を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々でできる事で、皆の為になればと手伝ってくれている。行事の飾りつけなど楽しみをもって行なっている。クリスマス会では、練習を重ね、家族の前で合唱を披露した。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日、基本的に散歩を行なっている。また、近くのイベントへの参加も行なっている。お買い物支援もしている。	職員は利用者の日常的な散歩を支援しているほか、書道展など地域行事や日用品の買い物に出かけられるよう支援している。 ウッドデッキや中庭には自由に入りができるため、利用者は気軽に外気浴を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には預かり金として、家族からお金をホームの方で預かっている。お買い物に出かけた折はその中から、自分の買いたいものを購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を所持している方もいて自由に外部への電話をかけている。手紙のやり取りも自由に行なっている。投函など、本人ができない場合はスタッフが支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は利用者が居心地良く過ごせるようにしている。季節感を出したり、行事の折には一緒に飾り付けなど行なっている。天井が吹き抜けになっているため、広々とした感じがある。横のテラスで体操や日光浴もしている。温度や湿度、明るさにも気を配っている。	リビングは天井が高く、天窓を配しているため明るくなっており、コーナーにテレビとソファが置いてあり、寛げる場所となっている。 壁面には家庭的な雰囲気となるように利用者書いた習字や、利用者職員で作成した季節の作品が飾られている。 大根や白菜、ブロッコリー、トマト、さつま芋などを栽培している自家菜園は、利用者職員が作業や収穫を共にする場となっており、五感を刺激したり、季節の移り変わりを感じられる空間となっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとりになってくつろげ、プライバシーが守れる空間作りを行なっている。本人がこうしたいと望んでも、自分ではできない時はスタッフが支援している。利用者同士での行き来は自由である。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は、ご家族と相談しながら、なじみのものを持ってきて頂いている。スタッフは本人と相談しながら、スペースをうまく利用できる様工夫している。	居室の入り口に名札をかけたり飾り物で目印をするなどして、利用者や家族等の希望を取り入れている。居室にはテレビやテーブル、箆、椅子、携帯電話など馴染みの物品が持ち込まれているほか、手作りの作品や家族等の写真などが飾られ、居心地よく暮らせる場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に応じて、自立支援を心がけ、ホーム内で自由に、気持ち良い生活が送れるよう、支援している。個々の状態に関しては、スタッフ間で情報交換を行い、安全な生活を送れるよう努めている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム けやき

作成日 平成22年6月28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	33	重度化や終末期に向けた方針を協議はしているものの、関係者間で共有し、明文化するまでには至っていない。	利用者の重度化、終末期への方針を明確化し、文書を作成、利用者、家族等に説明を行なう。	再度、話し合いの場を設け、方針を確認すると同時に、運営推進会議等で助言、情報を求める。	6ヶ月
2	6	身体拘束をしない旨の認識はあるも、玄関の施錠を含めて、職員への身体拘束のないケアへの意識啓発の機会が少ない。	職員への、身体拘束のないケアに向けての意識啓発を心がける。	職員の研修の機会があれば、参加し、また職員間で話し合いの場を設け、職員の意識の啓発を行なう。日中は玄関の施錠をしない。	3ヶ月
3	35	消防署指導の避難訓練は行なったものの、まだ記録、地域住民と一緒にには行っていない。	いろいろな時間の設定で避難訓練を行い、また地域の方の協力を得る。食料、飲料水、毛布等の備蓄を行なう	避難訓練の実施記録を作成し、地域住民の協力体制作りを行なう。防災の際の食料品等をホーム内に確保する。	3ヶ月
4	4	運営推進会議は継続して行なってゆく。	2ヶ月毎に運営推進会議において活発な意見交換を行い情報、相談、助言を頂き事業所の運営に役立てる。	運営推進会議の出席者の拡大を図り、更に多方面の意見を伺う一方、画一的な会議にならないよう、利用者と一緒に企画を設けるなど、親睦を深める。	3ヶ月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。